



ご挨拶
奥木曽グリーンリゾート株式会社 代表取締役 川口 勝
やぶはら高原スキー場は、地域の皆さまに支えられ、まもなく開設 100 周年を迎えます。しかし、近年は暖冬や雪不足による営業縮小、さらにコロナ禍と、試練の連続でした。
存続を危ぶむ声もある中で、私たちは「この場所を守りたい」という一心で営業を続けてきました。
ようやく来場者も戻り、スキー場単体での黒字化を達成。ようやくスタートラインに立てた今、次の 100 年に向けて新たな設備投資やサービス向上に挑戦していきたいと考えています。
このスキー場は、単なる観光施設ではなく、地域と来場者を結ぶ大切な交流の場であり、木祖村の未来を担う希望です。
どうか、私たちの挑戦を応援してください。

雪とスキー場の未来をつくる挑戦 人工降雪・圧雪車導入プロジェクト

やぶはら高原スキー場は、昭和 6 年の開設以来まもなく 100 年を迎える、国内でも有数の歴史あるスキー場です。国道 19 号から 10 分の好立地と、エリア最大級のグレンデ、多彩なコースを持ち、世代を超えて多くの人々に愛されてきました。
やぶはら高原スキー場は平成 17 年に民営化され、奥木曽グリーンリゾート株式会社が運営を開始、2006 年シーズンから 20 年にわたり営業を続けています。
しかし、近年の暖冬により売上減少が顕著となり、特に 2016 年～ 2020 年の 5 シーズンは雪不足の影響でコースのオープンが遅れ、年内に全リフトを稼働できない状況が続き、スキー場の経営は大きな打撃を受けました。こうした状況を受け、2019 年にはスキー場の存続を議論する「あり方検討会」が開催され、報道でも「存続の危機」として取り上げられました。
一方で、コロナ禍以降は来場者が回復し、2021 年以降の 5 シーズンは黒字化を達成。
木祖村も正式にスキー場の存続を決定しました。
過疎化が進み、人口減少が顕著な中、やぶはら高原スキー場を通じたお客様との地域交流は、木祖村が将来孤立した山間地域とならないための唯一の希望です。
今後も皆さまの思い出の場として存続できるよう、サービスの向上と設備投資に取り組んでいきます。

設備投資の目的

やぶはら高原スキー場は「どこよりも滑りやすく、質の高いグレンデの提供」をコンセプトに、人工降雪とグレンデ整備に力を入れてきました。
降雪チームは天候や雪の状態を見極めながら、日々最善のグレンデづくりに取り組んでいます。
天然雪がそれほど多くない木曽エリアでは、人工降雪機と圧雪車がグレンデ維持に欠かせません。
特にこの地域特有の低温環境では、粒子が細かく溶けにくい高品質な人工雪を作ることができ、滑りやすく上質なグレンデづくりに繋がっています。
しかし近年は暖冬の影響で雪不足が深刻化し、人工降雪機の役割はさらに重要になっています。
平成 3 年以降、導入してきたスノーマシンは現在 50 台以上が稼働していますが、30 年以上が経過し更新が必要です。また、メインコースのひとつである「国設第一グレンデ」には人工降雪設備が整っておらず、毎年オープンが遅れるという課題も抱えています。
さらに、圧雪車も価格高騰で導入負担が大きく、昨シーズンは故障によりお客様にご迷惑をおかけしました。こうした課題を解決し、より良いグレンデを未来につなぐため、私たちは人工降雪機と圧雪車の更新を目的としたクラウドファンディングに挑戦します。



木祖村長 奥原 秀一
やぶはら高原スキー場は、昭和 6 年に開設されまもなく 100 周年を迎え、多くの村民が運営に関わってきたことから、村のとはなくてはならない財産であるとともに重要な産業です。
私たちは、この大切なスキー場を未来に引き継いでいく責務がありますが、課題として、近年の暖冬の影響により、雪不足でコースのオープンが遅れるシーズンが増加しています。
スキー場運営において、スノーマシンによる安定的な降雪量の確保は必要不可欠となってきています。
皆様のスキー場を想う熱き心を結集していただき、更に 100 年続けていけるようご支援をよろしくお願いします。



木祖村議会議長 栗屋 正一
やぶはら高原スキー場は、私にとって人生の一部ともいえる大切な場所です。青春時代にスキーに夢中になり、やがてスキー学校長として指導に携わった日々は、今でも私の誇りです。
そして現在も、このグレンデに立ち、スキーを楽しむことで活力をもらっています。
地域の宝であるやぶはら高原スキー場が、これからの世代にも愛され続ける場所であるために、議会としても全力で応援しています。
今回のクラウドファンディングは、未来のスキー場を守り、育てていくための大きな一歩です。
多くの皆さまのご支援とご協力を、心よりお願い申し上げます。



鉱泉ヒュッテオーナー 辺見 元孝
やぶはら高原スキー場で鉱泉ヒュッテというレストランを営んでいます。
シーズンになると、毎年楽しみに来てくださる常連のお客様の笑顔に会えることが、何よりの喜びです。
この場所には、ただのスキー場では語りきれない、人と人とのつながり、家族の思い出、仲間との絆が詰まっています。
そんなかけがえのない場所を、次の世代にも残したい、それが私たち地元の願いです。
スキー場の灯を絶やさぬよう、皆さまの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



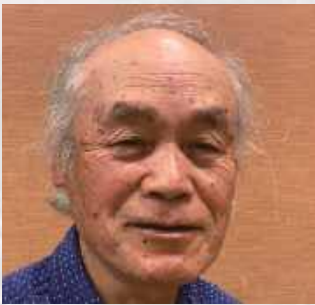
やぶはら高原スキー場 支配人 坪井 祐
私はこのスキー場が好きで木祖村に移住しました。
今では 3 人の子どもたちがスキーを楽しみ、雪の中で成長する姿を見られることが、何よりの幸せです。
スキー場は、ただ滑る場所ではなく、地域の人々や来場者の人生の一部となる、大切な存在です。
私自身、この場所で多くの出会いや学びを得てきました。
だからこそ、次の世代へこの豊かなフィールドをつなげていく責任を感じています。
スキーを通じて人と人、地域と都市、そして親と子の絆が深まるこの場所を、どうか皆さまと一緒に守り育てていけたらと願っています。



降雪・圧雪チーム 911 代表 奥谷 渚
私たちは、「どこよりも滑りやすく、上質なグレンデをつくる」ことを信念に、日々、一切の妥協なくグレンデ整備に励んでいます。
標高の高い木曽エリア特有の厳しい冷え込みの中、雪づくり・グレンデメイクに欠かせないのがスノーマシンと圧雪車です。
今回、国設第一グレンデにスノーマシンを導入し、圧雪車を更新することで、コースオープンをより早く、安定した雪質と快適な滑走環境を、シーズンを通して皆さまにお届けできるようになります。
この挑戦は、やぶはら高原スキー場を愛し、支えてくださる皆さまのお力なしには実現できません。
皆さまの応援が、私たちチーム全員の背中を押し、未来のグレンデをつくる大きな力になります。
私たちと一緒に、スキー場を未来へつなげていきましょう。



ALPEN オーナー / やぶはら高原スキー場組合長 山路 紋香
多くの常連のお客様に支えられながら、活気ある場所として毎日営業しています。スキーを楽しむ皆さまが、笑顔で戻ってこられる場所でありたいと願いながら、心を込めて運営しています。
私たちのスキー場は、小さな努力の積み重ねで支えられています。
今回のスノーマシン・圧雪車導入も、未来へ繋がる大切な一歩です。
もっと多くの人にやぶはらの雪の素晴らしさを届けたい。
そんな思いから、このクラウドファンディングに心から期待を寄せています。どうか、私たちと一緒にこの場所を育ててください。
皆さまのご支援を、心よりお願い申し上げます。



やぶはら高原スキー学校 / シニアクラブ主任教師 平井 実男
シニアクラブは、スキーを通して仲間と交流し、技術を磨き合う大切な場です。年齢を重ねても滑る楽しさは変わらず、最近ではクラブからスキークラブやスキー学校へ進む方も増え、活動の幅が広がっています。
私たちにとって、安心して滑れるグレンデは何より重要です。
スノーマシンと圧雪車が整備されることで、より安定したコンディションが保たれ、シニア世代も安心して技術向上に取り組むことができます。
この場所を、これからの世代にも受け継いでいくために。
皆さまのあたたかいご支援を、心よりお願い申し上げます。



スノーボードスクール代表 白井 勇樹
私たちのスクールは、滑ることが大好きな若いスタッフが中心となって活動しています。
大会にも積極的に出場しながら、技術と経験を現場で活かし、より多くの人にスノーボードの楽しさを伝えています。
やぶはらの魅力は、自然の地形と、整備された何処よりも滑りやすいグレンデにあります。
スノーマシンと圧雪車の導入によって、安定したコンディションが保たれることで、より多くの人が安心して技術を磨ける環境が整います。
どうかこの挑戦に、皆さまの力をお貸しください。
ご支援、よろしくお願いいたします。